

Title	Syndicalism, by Ramsay Macdonald
Sub Title	
Author	
Publisher	三田学会
Publication year	1913
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.7, No.1 (1913. 1) ,p.208- 216
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19130122-0208">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19130122-0208</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## Syndicalism

by J. Ramsay Macdonald

千九百十二年發行 小判七十二頁  
東京書館 七十五錢

本書は英國下院議員マクドナルド氏が千九百十二年五月中デイリー・クロニクルに寄稿したるシンデカリズムの性質と現状とに關する論文を集めて之に多少の訂正を加へて一冊として上梓したるものなるが、本書を分ちて緒論、第一章労働組合、社會主義、シンデカリズム、第二章政治的活動と聯合大同盟罷工、第三章ソレルの哲學、第四章直接的行動、第五章歐洲及び米國に於けるシンデカリズム、第六章大英國に於けるシンデカリズム、第七章シンデカリズムの主義第八章シンデカリズムの綱領及び第九章結論とす。其所論の大要は左の如し。

「シンデカリズム」は佛語にして、其意義は労働組合に外ならず。佛國には労働組合に二派あり。

り。一は改革的シンデカリズム syndicalisme réformiste として他は革命的シンデカリズム syndicalisme révolutionnaire なり。英國に於てシンデカリズムと稱するは後者なりとす。著者の説明せんと欲するは此後者即ち狹義の意義に於けるシンデカリズムなり。されば前者即ち改革的シンデカリズムの綱領は英國の労働黨の綱領と略同一にして佛國に於ける労働組合員の大多数の歡迎する所なりとす。(緒論)

シンデカリズムは現今の資本制度の廢止を以て其の綱領と爲すものにして、其の組織は英國労働組合の組織に毫も異ならず。即ちシンデカリズムは常に労働者に對して各其の職業に従ひ組合を組織し、又各地に在る諸種の組合の聯合會を設け且つ總ての労働組合の中央機關を設立することを懲慚す。佛國に於ては此中央機關を名けて労働組合大同盟會 Confédération Générale de Travail と稱す。要するにシンデカリズムは

英國に於ける労働組合と異なる所なく、唯之を革命的の目的に利用せるのみ。されど、シンデカリズムは労働組合と同じく賃銀の増率、労働時間の短縮、労働状態の改善の爲めに努力するに躊躇するものに非ず。而かも此種の改善はシンデカリズムの目的と爲す所に非ずして、其活動の副産物たるに過ぎざるのみならず、極端なる論者は此種の改善を以て寧ろシンデカリズムの終局の目的を達する上に於いて障礙と爲るものなりと云ふならん。シンデカリズムの主張する所に據れば、生産に従事する労働者が各其生産に用ゆる土地資本等の所有主と爲り、既に政權が平等と爲りたる如く財力も亦平等と爲るに非ずんば、彼等は自由の民たること能はざるべし。因是觀之、シンデカリズムは其一脚を労働組合に置くと同時に、他の一脚の一部分を社會主義の上に置けり。何を以て乎一部分と云ふ。曰く社會主義は生産の要素をば社會の所有に歸

せしめんことを主張するに反し、シンデカリズムは各特種の職業に従事せる労働者をして其職業に用ゆる生産の要素を所有せしめんことを主張す例へば鐵道員が鐵道を所有し、鑛夫が鑛山の所有するが如し。されば是はシンデカリズムの根本的擴張に非ざれば、之を以てシンデカリズムと社會主義との間に於ける根本的相異の點と看做すことを得ず。但しシンデカリズムは國有には反對なり。如何となれば、國有制度の下に於ける政府當局者は依然資本家たるものなればなり。

斯くの如く、シンデカリズムは社會主義と其性質を同じくせる所あるも、兩者の用ゆる手段に至りては、天地雲泥の差あり。社會主義が其の目的を達する爲に政治運動と労働組合其物の活動とを併用せんとするに反し、シンデカリズムは労働組合の活動のみを用ゐんとす。前者は全國民の公論に訴へんとするに對し、後者は單に

労働者階級を相手とせり。前者は又立法の作用に依りて改革を計るに反し、後者は腕力(生産事業の妨害又は革命的一揆)に依りて経済組織の革命を企てんと欲す。要するにシンデカリズムは主として社会主義に對して反旗を翻すものにして、社会主義が遅々たる立法の手段に依りて労働者の地位を改善せんと勉むるに反し、シンデカリズムは極端なる同盟罷工を舉行して傭主を窮地に陥れんと爲すに外ならず。(第一章)

シンデカリズムの金科玉條と爲す所は階級争闘にして、政事を事とせず。其の主張する所に據れば國家なるものは空想的の觀念に外ならず如何となれば社会には経済的強者と弱者ありて強者は常に弱者を壓倒しつゝあるものなれば、此二階級を以て國家を形成せんと爲すは一夢想に過ぎざればなり。而かもシンデカリズムが非國家主義なるは政治と政治家とに嫌厭たるにあらずして、其の信念其物が非國家主義たるを以て也。今日の政治は富豪の爲めの政治にして勞

働者の爲めの政治に非ず。されば労働者は政治的團結を排して産業的團結を行ひ、間接的方法を捨て、直接的方法を探り、以て其の地位の改善を計らざるべからず。故に労働者の争闘場と爲すべき場所は國家に非ずして工場なりとす。其の問題と爲すべきものは政治に非ずして経済なり。而して其直接的方法とは何ぞや。曰く、聯合大同盟罷工即ち是れ也。此聯合同盟罷工たるや曾て英國に於ける労働者が屢々用ゐたる武器なるも、其後暫時其跡を絶ちたりしが、千八百九十二年に至りてツールに於いて開きたる佛國労働組合の地方聯合會議に於いて之を採用するに決定したると、其後マルセーユに於ける労働組合大聯合會の之を採用するに一決したるときよりして再び此武器を復活せり。

聯合同盟罷工なるものは普通の同盟罷工の如く賃銀の値上げ又は労働状態の改善を目的と爲すに非ずして、経済界の革命を以て其本義とせ

り。政治家が労働者の労働状態の改善を目的として新法律を設けるとも、経済界の強者は此法律を寸断し、之を曲解して自己の利益に適合せしめ、之を一笑に附し去るの常なれば、國民は此種の法律制定を袖手傍觀するのみなるも、一朝聯合大同盟罷工の成立せんか、國民は袖手傍觀するを得ざると同時に経済界の強者も亦之を一笑に附し去ることを得ざるなり。是れ即ちシンデカリズムと社会主義との主張手段の分岐する所なりとす。(第二章)

然りと雖も、シンデカリズムは單に無政府主義に心奪せる労働者の奮起たるに止らずして、是れには一種の哲理を根據とせるものあり。此哲理の主唱者にして最も有名なるはソレルなりとす。ソレルの言に據れば、社会の制度は經世家の判断又は學者の熟慮の生みたるものに非ずして、人生の要素を悉く網羅し且つ之を結晶せるものに外ならず。人生の最大急務は常に生命

に活氣を與へ、之をして熱望を懐かしめ、且つ創作力を富ましむるに在り。熱望を懐かざる人民は亡び、熱望を有する人民は安座することを得ざるなり。吾人の感情が時としては理性と熟慮を驅逐して抑制力をして其權威を失はしむるに至ることあるは吾人の悉く經驗する所なりとす。斯くの如く一朝吾人にして感情の人とならんか、吾人は平素の吾人を超越して偉大なる所作を爲し得るものなり。抑も行爲の眞價なるものは用意周到なる顧慮に依りて定まらずして燃ゆるが如き熱情に依りて定まる。

要するにソレルの哲學はベルグリンの哲學の感化を受けたるものなるのみならず、前者は後者より更に一步を進めて社会制度の改造上後者の重要と認むる批評力の必要を否定せり。冷静なる又は理性的の考慮に類するものは一切ソレルの放棄する所にして、靈感的行爲の原動力たる感情を維持する爲めに、彼れは聯合大同盟罷

工を用ゐんと欲す。

シンデカリズムは又多数黨の支配權を否定す由來政治上の變動は少数派が自黨の爲めに現實せしめたるものなり。大多数の利益の爲めに變化を來たさしめたるるときと雖も、之を可能ならしめたるは依然少数黨なり。さればシンデカリズムは露骨に活動的の少数黨を構成せんと欲す。(第三章)

シンデカリズムは其の目的を達する爲め所謂直接的行動を執りつゝあり。其行動を直接的と稱するは仲介者又は代表者の手を藉らずして、シンデカリズム歸依者各自の行動に依りて目的を達せんと爲すを以て也。彼等は彼等の階級と雇主の階級とが吳越の關係の上に立てりとの前提を置き、何等の協定、和解に耳を傾けず、彼等は從來侮辱を蒙り、蔑視され、法外に低廉なる賃銀を受くること久しかりしが、彼等にして一朝奮起して産業を荒廢せしめんか、社會は遂

に疲弊困憊して彼等の足前に膝を屈して再び産業に従事せんことを哀願するに至るべく、従つて労働者は自己の欲する労働條件を強請することを得べし。而して此状態を現出せしめんが爲めシンデカリズムの探る重要な一方方法は故意に仕事を遅延せしめ、又は彼等の用ゐる工場の機械器具等を毀損するに在り。(第四章)

シンデカリズムは佛國に生る。千八百八十八年労働組合はボードーに於て聯合大會を開き聯合同盟罷工の決議を爲し。次いで千八百九十二年マルセイユに於いて資本主と労働者との間の争議は立法の手段を以て之を鎮定する能はざるものにして労働者に經濟的自由を與ふるものは産業組織の革命を措きて他に無しとの決議をせり。次に千八百九十四年ナンテに於いて大會を開き其會議中社會主義を奉せる者とシンデカリズムの領袖ブリアンとは覇を争ひたりしが、遂にブリアンの勝利に歸し、此年労働組合大同盟

會は成れり。同會は佛蘭西全國に於ける労働組合の聯合にして二部に分かる。一は英國に於ける労働組合と同様に於て、他は同じく英國に於ける同業組合聯合會に髣髴たり。兩者は各其の委員會と基本金を有し、外に聯合委員會なるものありて同盟會の監理と主義の普及とを司どる。最初政黨と労働組合との聯合を企圖しつゝありし間は其勢力微々として振はざりしが、千九百年革命派の覇を握るに至りて始めて隆盛の域に進めり。

然りと雖も、數字を以て之を論せば、此同盟會は頗る振はざるなり。佛國には千百萬の賃銀労働者存るも、労働組合に屬するは僅かに百萬人に過ぎず。此百萬人中にて同盟會を員たる者は僅々四十萬にして、其中少なくとも二十五萬は腕力的の行動と聯合委員會の革命的主義に反對せり。又同盟會は『民の聲』と稱する週刊雜誌を發行せるが、其發賣部數僅かに六千部に過ぎ

ず。要するに佛國はシンデカリズムの主義政策を普及するに便宜多き處なるも、此新運動は微々として振はず、又其の勢力を増しつゝ、あつと云ふことを得ざるなり。

獨逸に於てはシンデカリズムは殆んど存在せず、伊太利に於ては労働者間の無政府主義の傾向の一分子と爲り、和蘭に於ては之を組織せんとせしも其効なく、白耳義も亦之と同じ。其他北部の諸國に至りてはシンデカリズムは跡を見ず之に反して米國に於ては稍其の勢力の見るべきものあり。同國に於ける政治の腐敗、政黨本部の勢力、數多の人種の雜居より來る選舉上の缺點等は労働組合及び社會主義の發展を妨げ、従つてシンデカリズムの活動を補助するに至れり。ゴンパー氏の率ゆる米國労働聯合會に反抗して組織されたるものを世界産業労働者會と稱す。此會は其大會を始めて千九百五年市俄古に之を開けり。此會の企圖する所は賃銀労働者を結合

214

して革命的團結を組織し、各職業の労働組合の離壁を打破して以て精練労働者と不精練労働者とをして互に一致協力せしめ一職業に属する労働者の同盟罷工をして全般の労働者の同盟罷工たらしめんと爲すに在り。然りと雖も、米國に於てすら、純粹の社會黨の勃興は革命派の前途を危ふせしめ、且つ同盟罷工は革命的の色彩を帯びずして、單に經濟的根據のみを有するものと爲りつゝあり。(第五章)又英國にはシンデカリズムと稱し得るもの殆んどなし。(第六章)

シンデカリズムを批評するに當りて二個の異なる方面より之を觀るを要す。一はシンデカリズムの根據たる主張にして、他は其活動の方針なりとす。其の主張する命題は今日社會に於て雇者被雇者の二大階級ありて此階級間には争闘絶ゆることなしと云ふに在り。労働組合の存在は此命題が一面の眞理を有するを證するものと謂ふべし。されば此争闘は左程明白なるものに

も將た又た普遍的のものにも非ざるなり。抑も社會は生産者、消費者及び生産者と消費者を兼ねたる者より成る。而して消費は社會經濟組織に必要缺くべからざるものなりとす。又生産者と消費者との關係は單に經濟的なるのみに非ずして心理的作用を有す。弱者は時として其の保護者を去つて強者の許へ走り命を待つことあり。又經濟的弱者の階級中及び經濟的強者の階級中に由々數經濟上の争闘あり。之を根本的に論せば、生産者と消費者、一職業に従事せる労働者その他の職業に従事せる労働者との争闘なりシンデカリズムの攻撃する經濟界の弱肉強食は事實なりと雖も、こは強者の創始せるものに非ずして經濟界進化の結果に外ならず。經濟界の實權は之を發展、組織せしむる爲に個人の手に委ねるを必要とせしなり。シンデカリズムは又國會の運用を否認せるも、國會は社會の秩序と前後一貫せる産業政策の成立とに必要缺くべからば、前者の場合には人は皆同盟罷工の理由を知り、其罷工たるや的確の目的を有するものなるに反し、後者の場合には主動者すらも、其社會的革命に關して何等明確なる觀念を有せず、況んや大多數の陣笠に於てをや。シンデカリズムを奉ずる者は思へらく、一朝聯合同盟罷工の成立せんか、彼等が其の目的を遂げ得るは唯時を待つのみと。されば、這は謬見たりと云はざるを得ず。如何となれば社會を構成する個人は自家保存の本能を有するを以て、社會の産業を中絶せしめんと試みるシンデカリズム派の労働者に對し一致團結して反抗するに至るべければなり。加之、同盟罷工者に對する惡評は彼等の中に落伍者を生せしむるに至るべし。彼等は又其目的とする産業組織の革命をば所謂受動的抵抗を用ひて現實せしめんと欲するものなるも、社會は同盟罷工をして永久に持續するを容すこと能はざれば、兵力を藉りても産業の恢復を計

215

らざるものなりとす。シンデカリズムの主唱する國家は其の基礎を全く經濟組織に置くものにして、絞取的の組織としては最惡のものたり。斯くの如き國家はトラスト組織の進化せしものと看做すなり。要するにシンデカリズムの主義は取るに足らざるものなりとす。(第七章)

シンデカリズムは斯くの如く一の主義として取るに足らざるものなるが、其の活動は果して奈何。シンデカリズムが其の目的を達する爲めに用ゆるシンデカリズム特有の手段は前述の如く聯合同盟罷工なり。即ち産業を中止せしめ、之に依りて社會をして労働者の前に膝を屈せしめ、現今の資本制度を破壊して、新たに健實なる産業組織を樹てんと欲するものなり。聯合同盟罷工なるものは質銀の値上又は労働状態の改善を目的として、或は又革命的の希望を以て之を行ふことを得べし。而して前者は成功するの見込あるも、後者は成功の見込なし。如何とな

れば、前者の場合には人は皆同盟罷工の理由を知り、其罷工たるや的確の目的を有するものなるに反し、後者の場合には主動者すらも、其社會的革命に關して何等明確なる觀念を有せず、況んや大多數の陣笠に於てをや。シンデカリズムを奉ずる者は思へらく、一朝聯合同盟罷工の成立せんか、彼等が其の目的を遂げ得るは唯時を待つのみと。されば、這は謬見たりと云はざるを得ず。如何となれば社會を構成する個人は自家保存の本能を有するを以て、社會の産業を中絶せしめんと試みるシンデカリズム派の労働者に對し一致團結して反抗するに至るべければなり。加之、同盟罷工者に對する惡評は彼等の中に落伍者を生せしむるに至るべし。彼等は又其目的とする産業組織の革命をば所謂受動的抵抗を用ひて現實せしめんと欲するものなるも、社會は同盟罷工をして永久に持續するを容すこと能はざれば、兵力を藉りても産業の恢復を計

るべし。若し果して然らば、シンデカリズム派は之を袖手傍観することを得るや。彼等も亦腕力に訴へても其目的を達せんと爲すに至るならん。而かも這は受動的抵抗に非ざるを奈何せん。(第八章)

さはれシンデカリズムは労働者階級に對して貢獻する所なきにしもあらず。其貢獻とは何ぞや。曰く、各組合に屬する労働が自己の利害問題の解決を他人に委ねて安眠を貪るべからざることを適切に呼號せしにあり。労働問題の解決に勉めつゝある者に三派あり。一は國家社會主義を奉ずる者にして、總ての問題を國會の運用に依りて解決し、國家に絶對的權威を與へんと欲する者即ち是れなり。一はシンデカリズムにして是れ本書に於て論じたる所なり。又一は労働黨にして政黨と協力して労働者の進歩發展を計るものたり。此三派の中にて將來の進歩を確證するものは後者を措きて他に在らず。(第

九章)

以上は本書所論の梗概を述べたるものなるが、七十二頁の小冊良くシンデカリズムの希望と行動とを説明して餘蘊なきが如し。行文又流暢にして讀下して痛快を感ず。文體は多少の缺點なきにしも非ざれども、概して古典的とも云ふべきか。唯憾むらくは本書の論據たるや餘りに労働黨に偏してシンデカリズムに對する批評は多少苛酷に失するの虞あるのみ。

前號(第六卷)第四號 目次

論 說

- 小作料金納の利害 法學博士 桑田熊藏
- 住居問題 ドクトル、フイロツフイ 氣賀勘重
- 商人の意義に關する立法主義 法學博士 松本丞治
- 原始民族に於ける交換の意義 文學士 阿部秀助
- 國際法上國家及び國家の分類に關する私論 慶應義塾大學教授 板倉卓造
- 歐洲に於ける特異なる三種の銀行 小原喜三郎
- 株式の消却 在獨逸 西本辰之助
- 英國國民保險法 増井幸雄
- 憲法發展上に於ける合衆國の地位 吉田三郎
- 經濟學上より自殺を論じて乃木大將の自刃に及ぶ ドクトル、オブ、フイロツフイ 高城仙次郎

紹介

河田學士 共著『日本の經濟と佛教』(松本)

編輯主任

高城仙次郎

一冊定價 金廿五錢 郵税金六錢

一ヶ年前金 金九拾錢 郵税金廿四錢

● 編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛  
● 營業に關する用件は發賣所宛  
● 原稿締切期日は發行の前月十五日限

大正二年一月二十日印刷  
大正二年一月廿二日發行  
年四回(一月、四月、七月、十月)發行

三田學會雜誌 第七卷第一號  
編輯發行者 田中一貞  
東京市芝區白金三光町四百五十一番地  
印刷者 中島丑之助  
東京市京橋區宗十郎町十五番地  
印刷所 合資東京國文社

發賣元 北文館  
東京市小石川區櫻木町六番地

● 尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所 東京芝三田 三田學會  
慶應義塾内

振替東京二四四八四番  
電話番四三三三八一